

中川市長からの報告。この3年を振り返って

平成17年7月の初当選以来、『全国に誇れる魅力ある加西市の創造』を基本理念に、次々と行財政改革を進めてきた中川市政。この3年間の経過報告と今後の展望について市長が報告します。

1. 再選後、1年が経過して



▲再選。初登庁時 (H19.6)

初当選以来、私が提唱してきたことや手がけてきたプロジェクトが一つひとつ実ってきたことで、市職員はもとより市民の皆様のご理解も徐々に深まってきているのではないでしょうか。

この3年間、徹底して情報開示を進めてきた結果、市政や市の現状を放置しておけないという市民の自治意識が高まり、政治参加も進んできたを受け止めています。加西市の抱える様々な問題は、実は、過去からの問題先送り・怠慢・不作為などが、そもそもの原因であったことにもお気づきになったことと思います。

私自身の選挙マニフェスト（公約）や、市役所の改革マニフェストなど、個別具体的な政策を市民の皆様がチェックされ、選んだ市長が、公約やマニフェストを果たして実現したか、その達成度によって評価するという住民自治の考え方が、加西市にも漸く根付きはじめたように感じます。

3. 今年の最大テーマは、「環境と教育」

この3年間で市債残高の1割以上に相当する60億円（市税収入ほぼ一年分）を削減し、北条鉄道の経常赤字も半減することができ、財政再建への道筋は立ちつつあります。一方で、老朽化した学校や給食センターなど教育施設の耐震補強・建替え・統廃合をいかに進め、公教育の質をいかに向上させるかの重要課題があります。



▲東洋大学と市民連携協定締結 (H20.5)

公民連携（PPP）の手法やふるさと納税制度などを活用して、単年度の財政支出が過大にならないよう配慮しながら、全体を早期に整備していきたいと考えています。

加西を元気にするには、ふるさとの強み・特色・今ある地域資源を活かすことが大事であり、そのような観点から「環境と景観のまちづくり」を進めています。残念ながら加西市には、建築許可や大規模な都市計画についての権限もなく、開発指導要綱や関係条例さえ未整備の状況です。

そのため、環境破壊の開発行為や景観阻害の建築が市長指揮の及ばないところで発生しています。これらを未然に防ぐため、事前協議制や開発指導要綱を定めつつ、出来るだけ早期に条例化したいと思っています。

2. 当面の課題

右ページの通り、改革マニフェスト70項目にわたって相当な成果が出ていますが、当面取り組むべき課題として以下を考えています。

- ①病院のあり方委員会の答申を受けて、地方公営企業法の全部適用を実施できるだけの病院経営体制（病院事務局の増強）を築く。
- ②職員採用のあり方委員会の答申を受けて、今後、より一層の透明性の高い採用方法を実施する。
- ③新しい懲戒審査委員会に諮って、昨年の市政混乱を招いた職員による情報漏洩や改ざんなどについて、しかるべき処分を行って決着をつける。
- ④外部有識者や一般市民も参加する「事業仕分け」によって、市役所がやるべき業務の「選択と集中」を図る。
- ⑤東洋大学や関西大学などとの連携を進め、市が直面する重要課題について年度内に一定の方向性や成果を出す。



関西大学と地域連携協定締結(H20.4)▶

また、低炭素社会に向け、バイオマス事業などで全国自治体の先鞭を切って環境先進市を目指して取り組みます。けれども、これは、加西市が必ずしも公共事業として取り組むものではなく、民間事業者が取り組みやすい環境づくりを行政が行うことで対応していきます。

「私の存在意義は何か」と、常に原点に立ち返りながら、今後も市長職務に励みます。職務の遂行にあたっては、「全ては市民と加西市の将来のために」という判断基準で臨みます。過去の慣例に習い、これまでの市役所業務の繰り返しだけに終始するなら、私が市長である必要はありません。

これまでの加西市ではできなかった改革を、今後も大車輪で進めていきます。時代が私を求め、市民の皆様が私を必要としている限り精一杯頑張って、相当の成果を上げる所存です。

政治のリーダーシップが変わることで、加西のイメージや街の活力、そして市民の心理も好転してきたと多くの市民の皆様が喜んでいただけているように引き続き頑張ります。



▲テレビ生出演。市政について語る (H20.5)

4. 採用あり方委員会の答申を受けて

市役所には、市民のために真に役立つ人材が必要です。サービス精神やコスト意識があるか、市民に喜ばれることを生き甲斐とできるか、主体的に考えて行動し成果を出せる職員が否かで、市民満足度は随分と違ってきます。

このような考えから、私は、市長就任以降、公正かつ透明性の高い採用とするために、選考方法を順次改善してきました。そして、今回、「職員採用試験のあり方委員会」の答申を受け、知識よりも人間性をより一層重視するなど、選考方法をさらに進化させました。

市役所の業務には、高度の専門学力よりも、むしろ、市民サービスの現場において、市民との協働や連帯ができるような幅の広い人間性をもった人材が必要です。また、答

えの決まっている問題は解決できても、未知の問題や突発事態に対処できなければ、任務を遂行できません。

地域の強みや今ある資源を活かすことが、まちづくりの基本です。それゆえ、市役所職員には、加西を外からの視点で観られる人材、市民・納税者の立場と行政の立場の双方から物事を考えられる視野の広い人材、気付きと行動のある人材などが求められます。

加西市の採用試験では、積極的に応募者の特性や持ち味を見出し、「人材としての可能性」を厳正かつ公正に評価して、合否を決定します。「磨けば玉になる」人材よ、来たれ！。

(市長)



▲松本委員長から提言書 (H20.6)

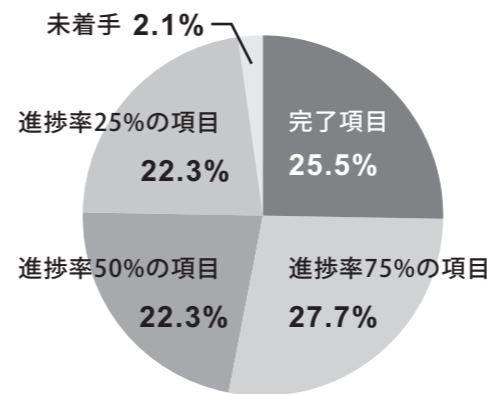
改革マニフェスト進捗状況の報告

平成18年に70項目の改革マニフェストをまとめ、その後、逐次、内容項目を追加し、現在94項目となっています。平成20年3月末現在の進捗状況は下記のとおりです。

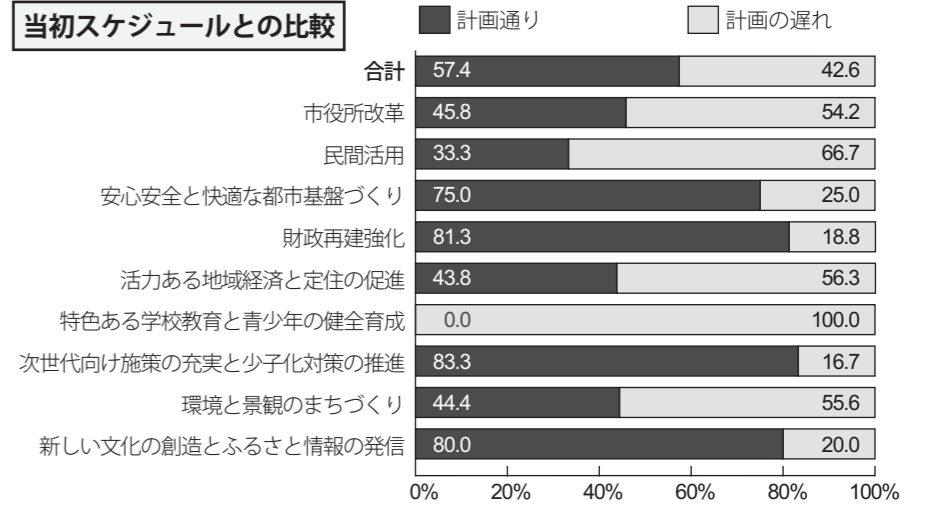
概ね順調で、唯一教育分野の進捗が遅れており、「幼保／小中学校のあり方」を当面の最重要課題として取り組みます。今後とも市民の皆さんへの説明責任を果たしながら推進してまいります。

詳細は加西市ホームページをご覧ください。

進捗率による分類



当初スケジュールとの比較



改革マニフェストに取り組み、1年半で主に次の成果を達成しました。

【問合せ】 経営戦略室 ☎428700

主な成果

各種職員手当の廃止と削減
退職時の特別昇給制度の廃止
技能労務職の職種変更
管理職に目標管理制度を導入
社会人採用開始
採用試験委員会に外部委員を導入
職場アンケートと全職員への市長面接
全国公募による人材募集
議会のインターネット中継開始
指定管理者制度の導入
ゴミ収集の民間委託エリアの拡大
上下水道業務の包括民間委託
病院給食の民間委託
電力使用料削減／石油購入経費削減
公用車売却／広告収入強化

ヤフーオークションによる差押物件売却
インターネット等による市有財産売却
納税組合制度の廃止と口座振替制度の促進
コンビニ収納開始
「病院フォーラム」の開催
「病院あり方委員会」の開催
病院機能評価の認定基準クリア
産科再開（マタニティセンターのオープン）
公共料金改定
加西ブランド協定の締結
市内特産品の給食利用
環境基本計画の策定・公表
全国初のEA（エコアクション）21取得
指定ゴミ袋の導入（ごみ袋の有料化）
不法投棄監視員（エコレンジャー）の公募設置
教育施設の耐震診断完了

延長保育／預り保育／学童保育の強化と拡大
ファミリーサポートクラブの開始
特別指定区域制度の活用促進
新婚世帯家賃補助開始
企業誘致数、県下トップの実績
三洋電機跡地の地区計画（イオン出店）
北条鉄道にボランティア駅長制度導入
北条鉄道の赤字半減
バイオ燃料の利用促進（公用車への使用）
廃食油の試験収集開始
CO2削減協定とBDF製造装置の提供
バイオマス企業の事業化決定と建設着手
NPO法人に対する減免制度実施
加西市内初のNPO法人の誕生（7法人）
兵教大・関西大・東洋大学との連携強化
日経e都市ランキング全国22位へ躍進